

啐啄

平成25年7月1日刊行
 編集・発行 大島町教育委員会
 教育文化課事務局
 TEL 04992-2-1453
 題字「井島 吉春」

平成25年度中体連大島支部選手権大会



野球 優勝 第三中学校



バレーボール 優勝 第三中学校



テニス 個人優勝 坂上(琴)・武田(二中)
 団体優勝 第二中学校



サッカー 優勝 第一中学校

『教育委員長雑感』

教育委員長 白井 良平

－ 特色ある教育 －

5月から6月にかけて、中学3年生の修学旅行や小学6年生の移動教室が無事に終わり、現在の各校は水泳指導がたけなわといった時期であり、1学期のまとめに取り組んでいる状況ではないでしょうか？大島の小中学校における水泳指導は、都内のそれと比べてかなり高いレベルで行われていると思います。町主催の水泳大会が行われることもあります。私自身はそれよりも「島の子は海に囲まれて生活しているのだし、泳ぐことが最低条件だ。」という思いで実施していました。ですから、校長時代のプール開きの日には「海の3条件（海水温、潮の流れ、波の高さ）を忘れるな！」という話を毎年していましたし、教員時代は速く泳ぐことよりもむしろ、長く泳ぐことに重点を置いていたことを思い出します。

このように、学校の水泳指導一つをとっても都内と島ではその目的や内容が変わってきます。地域や環境が異なれば、そこでの教育内容もそれなりにアレンジされていくのが当然のことなのです。大島の子もたちには、将来に向けてどんな力が必要で、その力を身につけさせるためにはどのような指導・支援を行っていくべきなのか。実態を分析・検討して課題を掘り出し、それを克服するための具体的な方策を立てて実践すれば、自ずと「特色ある学校」が生まれると信じているのですが、いかがでしょうか。

－ 道具の発達 －

5月のいつだったか忘れましたが、TVのニュース番組の中で最新の教育機器についての紹介をしていました。電子黒板に先生がタッチすれば様々な板書事項が映し出され、子ども達の机の上にはタブレット型の教科書兼ノート、兼辞書のような機器があります。先生の指示や子ども達の質問・回答が双方向で一瞬にしてやり取りできます。テレビ画面やゲーム機などに慣れている子ども達の興味関心も高まりそうですし、未来の教室はこうなるのでしょうか…？ただ、どんなに教育機器が進んでも昔から絶対に必要なものが教室にはあります。それは、子ども達と先生との信頼関係です。子ども達は信頼できる先生の話はよく聴きます。逆に信じられない先生がいくら素晴らしい道具を駆使しても、その成果は期待できません。児童・生徒と教師との信頼関係が土台となって全ての教育内容が浸透していく。これが日本の学校の素晴らしい所でもあります。

「スマートフォン（スマホ）の危うさ」

教育委員長職務代理者 土井 実

スマホが子供の世界に進入している。内閣府の平成 24 年 11 月時点の調査では、携帯電話所有者のスマホ率は小学生が 7.6%、中学生 25.3%、高校生 55.9%。1 年前は小学生 0%、中学生 5.4%、高校生 7.2%とのこと、ものすごい勢いで所有者が増えている。入学や進学時に新たにスマホを買い与えた保護者の方も多いのではないのでしょうか。従来型の携帯電話とは違い、スマホは小型のパソコンです。人の目に届きにくいところで、そんな端末を持つ危うさを保護者は理解しているのでしょうか。

保護者としての心得として「なぜスマホを子供に持たせたいのかを考えること」、「何かの際に連絡が取れるように」であれば、従来型で十分である。しかし携帯電話の新規モデルはほとんどスマホであり、保護者も「スマホに替えて、勉強すること」。「同じ機種にすれば、分からなかったら子供に聞くなど会話のネタになり、子供がどんなふうに使っているかもわかり、安全を守ることに近づく」。有害コンテンツの遮断方法も複雑化してきていますので積極的に学び、それに基づき親子でルールを作り、それを守らせる事が所有する最低条件であると考えます。



「親の器」

教育委員 井島 吉春

ある研修会で法律関係の人と話をしていると、昔、我が子に「悪魔」と名付けた親の話がでた。結局、裁判所では却下され一件落ち着いたかと思ったら、その後その親が何か事件を起こし逮捕され、かなり話題となった。まわりは、やっぱりそんな親だったんだと呆れかえっていた。

子供が生まれると将来の幸せを願うせいか、とても難しい名前を付けることもある。最近の名前は特に難解だがこれも親の愛情の表れか。

子供の顔、ただ寝ているだけの顔をいつまで見ても飽きることなく、ほおずりしたり、たまにニコッとした表情にでくわしたら、それは親しか味わうことが出来ない最高の一瞬で幸せ一杯になる。その後親としての理想や希望が芽生え、ああなってほしい、こうなってほしいなど勝手に思いを募らせるが、子供が成長するにつれて、どうも親の思いとは違う育ち方をしていることに気付く。「子供は親の言うとおりにではなく、親のするとおりになる。」というが、その事に親はなかなか気付かない。何でも出来て良い子に育ててほしいと誰もが願うが、そううまくゆかないことぐらい我が身を振り返ってみてもすぐ分かるはずだが、悲しいかなそれが現実である。

たとえ、我が子が親の思いと違っていても、「おまえの為に何が何でも応援するぞ。」という親の覚悟と大きな心の器があれば、きっと良い子に育つであろうと信じたい。子育ては苦楽一如の修行である。

「悪い言葉は水も腐る」

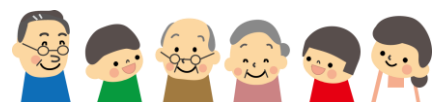
教育委員 高田 穂子

以前に読んだ本で水を温度、湿度、明るさ等全く同じ環境において、Aの水には良い言葉、Bの水には悪い言葉をくり返し言い続けるという実験をした所、悪い言葉をあびせ続けた水は早く腐ったというものでした。

悪い言葉は、子供や大人（人間）ばかりでなく水までも腐らせるものなのだと思った記憶があります。バカ、死ぬ、うざい、きもい、汚いなどのいやな言葉が子供達の間で飛び交っているのが、とても気になります。言っている本人は何気なく使っているのかも知れませんが、直接言われた人は、本当にいやな気持ちになります。

子供達は、テレビやゲームなどのメディアを通して良い言葉も悪い言葉もどんどん目や耳から入ってきます。乱暴な言葉、悪い言葉のほうが印象的でつい使ってみたくなるでしょうが、相手の人格を否定する様ないやな言葉は使ってはいけません!!

やさしい言葉を使っていると、お友達が元気になると一緒に自分も、やさしい気持ちになり元気になるのだよ、という事を大人達は、示してやるべきではないでしょうか。



『子どもの教育に思う事 (其の一)』

教育長 石川 龍治

今子どもの教育、特に「しつけ」について思うところに少し触れてみたい。私の思う子どものしつけは、現代から見ると少し古いと思う方が多いと思うが、それを恐れずに述べてみたいと思います。

まず自身の子どもの頃に思いをはせてみると、実にさまざまな光景、場合、が思い出されます。大人の理不尽さ、有無を言わさずの、厳しさです。ごく低年齢の頃は、大人はおろか年上の「子どもに」理不尽にもいろいろな事柄について、決定権があり、下の者はそれに従うことしか許されませんでした。遊びの中でも、でありました。小学校に入学する前は、半人前の扱いすらされず、「ミソッカス」と言う扱いで、ルール、掟と言った事も適用されない存在でした。ルールが適用された時は、一人前に扱われたという事で、喜びをさえ感じたものでした。

家庭にあっては、親の決めたこと（日本人の社会では当たり前のことだったと思う）に従うことが前提で有って、それが当たり前。家の手伝い、帰ってくる時間、挨拶のしかた、年長者への言葉づかい、食事の時の行儀（食べ物は大変貧しかったと思うが、うるさく言われたと記憶している）登下校の時に会うおじさんおばさんに挨拶すること等です。

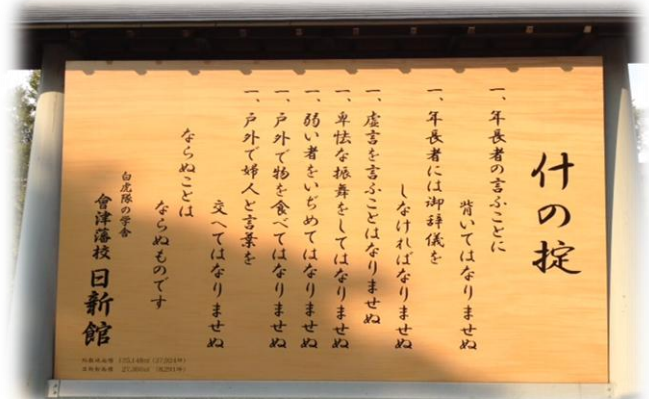
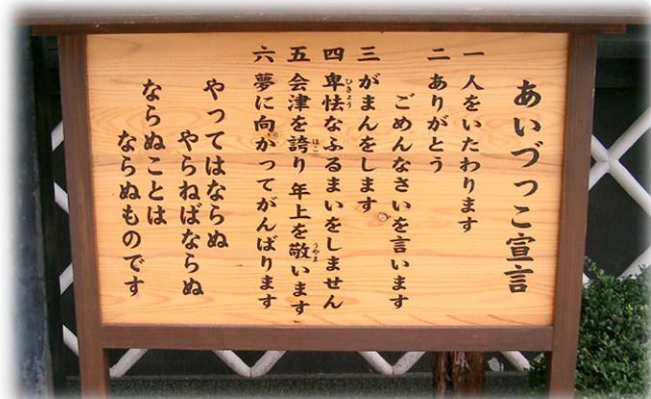
この有無を言わさずやらされたことで、するべき事、してはいけない事を身につけたのだと思います。それはやがて、規範意識の芽生えとなっていきます。悪いことは当然してはいけない。人に後ろ指を、指されるようなことは、決してしてはならない。お天道さまに恥じる事はいけないことだ。神仏に誓って恥じる行いをしてはならない等の事でした。

このような環境がいけない事だと思う人は誰もいないと思います。いたとしても、ごく一部の人であろうと思います。多くの方はごく当たり前のことだと、共感されることでしょう。人からの評価ではなく、自分自身の中の評価、言い換えると、自分の良心による評価が優先されて来たのです。

今はと言うと、評価基準のグランドラインが傍目、人の目にないだろうか。自分自身の内なる目を大切にしたいものです。人の目がないからとか、ばれなければ、という評価基準は有ってはならない事です。お天道さまや神仏に恥じないか、それは自身の良心に恥じないかという事だと思います。

会津藩の日新館「什の掟」は有名なところであるが、会津若松市教育長の宗像精（むなかた ただし）氏いわく、「我が国の教育現場（家庭・学校・地域・職場等）が確たる不易の指針を失いながら、場当たりの指導しか思いつかぬ混迷の時代は、思えば戦後からずっと続いてきたのではないか。経済大国にはなったが、物質文明先行の醜さが染み付いてしまったような気がする。かつて日本には儒教的モラルというものが、非常に分かりやすいかたちで、青少年の訓育がなされていた。」（以上【日本教育】より引用）、そして氏は「ならぬものはならぬ」という精神的伝統文化を現代に生かすために「什の掟」の現代版として「あいづっこ宣言」を策定しています。そして、道徳教育の重要性を、衣食は足りたが礼節は忘れられた現代社会に、肝に銘じたいと言っています。

家庭における教育は、子どもにとって極めて大切だと考えます。うるさくても、汚くても無条件で愛される親の愛を実感しながら育つと、豊かな感情が形成され、その土台の上に「しつけ」を受け入れ、「規範」を身に着けて行くと言われていきます。十分な愛なしに、子どもに要求したり、おこったりすることは、子どもの感情が十分に育たないばかりか、歪んでいくこともあるといわれています。そして逆に、「溺愛」はわがままで無規範な子どもを作り出して行くとも。これは、親にとっては大変なことだと思いますが、だからこそ、子どもの教育には地域の協力の必要があるのだと思います。地域の宝として、皆で見守り育てる意識を持っていきたいものです。



教育委員会カレンダー（7月～12月）

12	11	10	10	9	8	8	8	7	7	月
10	3	26	13	29	25	21	1	20	20	日
大島町立小中学校連合音楽会	大島町体育祭駅伝競走大会	東京文化財ウィーク2013特別展 大島の遺跡展（10月26日～11月4日）	大島町体育祭体育レクリエーション大会	第68回国民体育大会 大島町相撲競技会（9月29日～10月1日）	大島町体育祭野球大会（一般の部）開始	多摩・島しょ子ども体験塾 島しょブロック（8月21日～24日）	大島町体育祭水泳大会	弘法浜プールオープン（7月20日～9月1日）	大島町少年相撲大会	内容

事務局からのお知らせ

学校教育係

【学校施設の工事について】

各小中学校空調設備改修工事ほか下記の工事を7月から実施します。

工事期間中は学校敷地内に大型車両が入り出しますので、児童・生徒の送迎等、学校に来訪される際はご注意ください。また、夏休み期間中は校舎の立ち入り制限等、ご迷惑をおかけしますが、何卒よろしくお願い致します。

<工事内容>

- ・各小中学校空調設備改修工事 工期：7月～10月
- ・第一中学校校舎耐震補強工事 工期：7月～ 8月
- ・その他建築、改修工事 工期：7月～ 8月



社会教育係

知ってましたか？岡田沖から「小判」がザクザク！！昭和32年1月30日に勝崎沖の海底（砂の中）から一両小判が貝採りのために潜っていた人によって偶然発見されたのです。慶長小判と元禄小判は合わせて103枚、一分金63枚、時ならぬ小判ブームが沸き起こったとのこと。

これらの遺物は埋蔵文化財として扱われることになるので、警視庁の本庁まで運ばれて現在は上野の東京国立博物館の所蔵となっています。

今年、同館の埋蔵文化財の特別展示があり、約3ヶ月に渡り一般公開されました。

いつか大島でもと計画中！



給食センター係

給食センターは、児童・生徒の皆さんに安心して安全な給食を1日約700食提供しています。8月の夏休みには、今まで長年にわたり使用してきた炊飯システムと配送車2台が改たに導入され2学期を迎えようとしています。

【臨時職員の募集について】

給食センターでは調理補助及び配送車を運転する男性の臨時職員を募集しています。

学校給食にご理解とご協力のできる方をお待ちしています。



図書館

移動図書館車「ひまわり号」のボランティアを募集しています。内容については各地区で本の貸出し作業、ひまわり号の運転（普通免許で運転できます）、本の登録作業等です。第1～第4土曜日の午後に運行しています。半日ではなく少しの時間、30分、1時間でも構いません。興味がある方はひまわり号事務局 大島町図書館 神野までご連絡下さい。

☎04992-2-2392
（月曜休館日）

